

武蔵工業大学後援会誌

Mi-COM

No. 25
2002-1



多摩川河川敷の総合グランドでは、機械システム工学科・宇宙システム研究室による『水ロケット発射実演』がチビっ子たちの人気を集めた。この日、未来のエンジニアがまた一人生まれたに違いない。

第72回 MI-TECH祭(11月23・24・25日開催)にて



ワイヤレス情報社会

後援会副会長 安部 實

「グッバイ・・・」スチュワーデスが夫に、「だめらしい。愛している。幸せに生きてくれ・・・」自宅の留守番電話に妻あてのメッセージ、「ハイジャックされ、機首が下がっている。爆発音も聞こえ、白い煙が見える」機内のトイレから乗客が警察に緊急通報。ハイジャックされた4機の民間航空機による米国同時多発テロに巻き込まれた乗員と乗客が携帯電話で伝えた悲痛な最後のメッセージである。

一方、世界貿易センタービルに航空機が衝突してビルが崩壊するまでの1時間足らずの間には、燃え盛る建物内に閉じ込められ、突然の死に直面した人々が携帯電話を使用して愛する人へ最後の電話をかけていた。崩壊したビルの瓦礫の下からは、携帯電話で助けを求める声が家族へ伝えられ、救出された人たちが居る。

ワイヤレス化された情報伝達の威力がこれほどに示されたのは初めてである。このようなことは携帯電話が出現する以前ではありえないことであった。

従来有資格者のみが使用できたワイヤレス通信機器が無資格で個人使用のできる携帯電話として爆発的に普及し、2001年9月の時点で日本の携帯電話とPHSの合計契約台数が約7100万台という。国民のほぼ全員が持つのも時間の問題のようだ。最近の携帯電話は映像も含めてインターネットにも接続可能となり、設置型のパソコンで繋いでいた情報がいつでも身近で利用できるようになりつつある。情報端末を身につけて持ち運べる時代になってきた。

このような情報手段を手に入れた我々はどうの用に使いこなせばよいのか。利用方法によっては素晴らしい効果を発揮するが、携帯できる手軽さから、家族や仲間に身近で話すような気安さでつい電話をかけてしまいがちである。場所をわきまえないで電話をする人にはうんざりする。また病院では医療機器への影響から使用できない。T.P.O.をわきまえた使用が求められる。

携帯電話を犯罪に利用する例が増えて新聞紙上を賑わしている。特に出会い系サイトでの事件が急増しているという。便利な機器を生かすも殺すも人間の意志次第である。

犯罪やテロ集団の摘発のため公的機関による情報監視が具体化される中、一般ユーザーのプライバシー保護が問題にされている。ワイヤレス情報社会の時代を迎え、公的機関および個人ユーザーの両面からのバランスのとれた新しいモラルの構築が求められる。携帯電話の行き着く先はどのようなのだろうか。

平成13年度 東京地区

「父母との連絡会」 取材レポート

武蔵工大および後援会の恒例行事である「父母との連絡会」が、今年も全国各地で行われました。東京地区は9月29日、世田谷と横浜の両キャンパスを会場として開催。学内見学という特別プログラムも用意されているため、東京近県以外からも多くの参加がありました。

SETAGAYA

世田谷キャンパス

研究室・実験室の見学では 積極的に質問されるご父母も

世田谷キャンパスの「父母との連絡会」は、学内見学からスタート。一組30人ほどのグループにわかれ、教職員の引率の下に学内のさまざまな施設を見てまわりました。ご両親、ご兄弟の参加が目立ち、また単独で参加された方もすぐ他の参加者と打ち解けられたようで、どのグループとも和やかなムード。教職員の時折ジョークを交えた説明も助け、わきあいあいと学内を巡っていきました。研究室や実験室、情報処理センターなど、工学部ならではの施設では皆さん興味しんしんの面もちで、教職員やそこで研究を行っている学生たちへ積極的に質問する方も。見学ルートの最後は学生食堂となっており、ここで普段学生達が食べている「学食」の味を試していただきました。

午後からは「父母との連絡会」のメインである全体説明会です。体育館で学長、工学部長、後援会長、就職連絡協議会議長より説明があり、その後は会場を教室に移して学科・学年別の懇談会へ。希望者には個人面談も行われました。



世田谷キャンパスには約453名の方が参加。写真は全体説明会の風景。



昼食のメニューはカレーライス。質・量に満足。



昼食後は吹奏楽団の演奏を堪能。



学年別懇談会ではさらに詳細に説明が。



音響研究室を見学中。説明担当は大学院生。

教職員の引率のもと、和やかなムードでキャンパス内を見学。



大学教育の最先端に行く環境に 皆さん大いに感心されていました

横浜キャンパスでの「父母との連絡会」は、世田谷キャンパスとは逆に、全体説明会から始まるスケジュール。学長、環境情報学部長、後援会長、教務委員長、就職担当教員よりそれぞれ説明がありました。環境情報学部は今年で創立5年目の学部であり、ご父母の皆様はその教育内容や就職状況について高い関心をお持ちだと思われます。今回この機会に各者の説明を聞くことが、大きな安心材料になったことでしょう。

説明会の後は学内見学の時間。横浜は“エコキャンパス”を標榜するだけあり、自然や周辺環境などへの配慮をいたるところで感じることができます。また最新機器を揃える情報メディアセンターをはじめ、各施設はこれぞ大学教育の最先端といった陣容。これらを目の当たりにし、参加された皆さんが非常に感心されていたようです。

午後からは各教室で学年・クラス別懇談会を実施。最後まで充実した「父母との連絡会」となりました。

開催日は秋らしい気持ちのいい気候だった。



皆さん真剣な面もちで説明に耳を傾けていた。



続々と会場に集まるご父母。



映像による就職説明。



個別面談もわかりやすさを心がけた。



◀明るい雰囲気のある学生食堂で昼食を。メニューはラーメン。

参加された父母の方々へ
感想をうかがいました。

世田谷
VOICE

子供が4年間を過ごすキャンパスの日常がのぞけ、参加して良かったと思う。他の大学より落ち着いた雰囲気があるようだ。

渡辺 宗嗣君(電子通信1年)のお母さん



昨年も参加。入学式、学園祭と何度も訪れているが、いつ来てもいい環境だと思う。勉強が大変そうだが、頑張らせて欲しい。

伊藤 圭典君(電気電子2年)のご両親



閑静な住宅街の中にあり、敷地内には緑も多い。都心の大学とは思えないほど好環境だ。学生たちの雰囲気も好感が持てる。

中西 康夫君(電子通信2年)のお母さん



面白そうなことをやっているが、工業高校レベルのようにも見えた。4年になって、学業と就職活動を両立できるかが心配。

望月 隆久君(機械システム1年)のお母さん



群馬から参加。大学は初めて訪れたが、想像より綺麗なキャンパスだった。今日はこの大学の教育方針がわかって良かった。

篠崎 美典さん(エネ基礎4年)のお母さん



大学に来るのは入学式以来。4年間で卒業できるのが、また就職のことも心配だったので、おかげで不安はかなり解消した。

牛尾 信介君(機械2年)のご両親



全体説明会における印象に残ったコメント

*

世田谷、横浜の両キャンパスで学長をはじめとする方々がどのようなことを語ったのか。

その内容をここで簡単にご紹介してみましょう。



社会情勢に対応できる 柔軟な人材を教育したい

かつて“研究・教育の場”と認識されていた大学だが、今は“教育・研究の場”として機能すべきだ。研究を二の次にするわけではないが、教育こそ大事。社会もそれを望んでいるはずだ。

学長 堀川 清司



学生の就職活動に対して 後援会も支援の必要がある

学生たちは非常に厳しい就職状況に直面しており、後援会としても様々な面から彼らの活動を支援したい。来年度入学からすべてのご父母に後援会への加入をお願いするのもその延長だ。

後援会長 中山 安男



進歩の著しい工学の世界 基礎固めが何よりも重要

その大学で何を学んだのかが、とくに工学部系の学生には問われる。工学という分野は4年間で学習を完了させることは大変だが、基礎だけはしっかり身につけた人材を輩出していきたい。

工学部長 伊藤 泰郎



幅広い教育を行うからこそ 目的意識を持つことが大切

本学部には様々な分野の教員があり、幅広い教育を行っている。この中で効果的な学習をするには、学生自身がしっかりとした目的意識を持ち、いち早く専門性を見いだすことが大切だ。

環境情報学部長 富永 健一



進路を早めに定めるよう 家庭でもお子様にご指導を

就職戦線は早めに動き出すことが大切。大学では3年次の10月より本格的な指導を始めるが、それ以前に自分の進路をある程度絞り込んでおくことが望ましい。ご家庭でもそのような教育を。

就職連絡協議会議長 小玉 克巳



教育内容以外にも本学部 で得られることは多い

留学生や帰国子女などが多く、多彩な人間関係を構築できることも本学の特色のひとつ。また「事例研究」「卒業研究」などで体験したことは、必ず将来の財産となっていくはずだ。

環境情報学部教務委員長 高田 達雄

横浜VOICE

ペンにノートという授業スタイルは、すでに過去のものなんだと実感した。学生食堂の雰囲気だけは昔と変わらないようだ。



阿部 宗典君(環境1年)のご両親

今までの大学のイメージと大きく離れており驚いている。懇談会では全体説明会以上に就職について詳しく聞け、良かった。



坂野 友美さん(環境3年)のお父さん

昨年卒業した1期生の方々の就職内定率が高かったという説明を受け、安心した。来年度にできる新学科にも期待したい。



石黒 洋一君(環境1年)のお父さん

いまひとつ学部の内容を把握できていなかったのが、参加して良かった。息子の担任と話すことができたのも有意義だった。



青戸 哲之君(環境2年)のお父さん

もっと事務的な説明会だと思っていたが、充実した内容に満足。中学や高校のときのように学校側との距離が縮まったようだ。



中川 祐樹君(環境3年)のお母さん

就職の現状がわかってホッとした。学内見学では大教室の設備に圧倒。こんないい環境で、勉強できないはずがないと思う。



小林 明希さん(環境3年)のお父さん

平成13年度の就職動向

今年度の就職戦線は、就職協定が廃止されて4年が経過したが、各企業の業績が年度末(3月期)において2年連続して売上高・経常利益ともに好業績となり、さらには、リストラの一巡、ソフトウェア分野の人材需要の増加等の要因により、大卒採用予定人数が2年連続してプラスの伸びとなった。しかし、企業側の採用活動のキーワードである「早期化」「厳選化」「多様化」「ミスマッチ是正」が進んでいる。会社説明会・採用選考・内定出し日程の前倒し、能力・適性・意欲の重視、専門性を問う職種別・事業部別採用、さらには、近年社会問題化している早期離職に対する歯止めとして、十分な企業理解(仕事理解)

のためのオープンセミナー等が熱心で開催された。また、一部大手企業で新たな採用手法として「インターンシップ(就業体験)」を導入する企業も現れた。

この環境下、今年度の就職指導においては、特に個別面談に重点を置いて実施した。その具体的内容は、エントリーシート及び履歴書(自己紹介書)に基づき、自己の「強み」を卒論(修論)・学生時代の主な取組み・自己PRそして志望動機(企業理解)の項目において意志表現が出来るかという確認であった。早い時期からの十分な自己分析・企業理解が就職内定の最大のポイントであることを学生に指導することが出来た。

平成13年度求人就職内定状況

(平成13年12月1日現在)

項目	学科・専攻	就職希望者	内定者	内定率(%)	求人企業数	1人当たりの企業数	求人数	1人当たりの求人数	進学希望者	進学決定者
工学部	機械工学科	84	79	94.0	2,844	33.9	5,503	65.5	44	28
	機械システム工学科	76	74	97.4	2,511	33.0	4,908	64.6	23	14
	電気電子工学科	80	76	95.0	3,000	37.5	5,796	72.5	57	46
	電子通信工学科	110	102	92.7	2,679	24.4	5,275	48.0	21	16
	電子情報工学科	59	58	98.3	2,610	44.2	5,138	87.1	21	17
	建築学	91	74	81.3	2,318	25.5	4,620	50.8	35	30
	土木工学科	70	66	94.3	2,277	32.5	4,511	64.4	20	9
	経営工学科	127	117	92.1	2,165	17.0	4,336	34.1	21	17
	エネルギー基礎工学科	27	27	100.0	2,118	78.4	4,320	160.0	27	22
	小計	724	673	93.0	22,522	31.1	44,407	61.3	269	199
大学院工学研究科	機械工学専攻	40	40	100.0	1,160	29.0	2,188	54.7	0	0
	生産機械工学専攻	25	24	96.0	1,029	41.2	1,968	78.7	1	0
	電気工学専攻	106	106	100.0	1,240	11.7	2,335	22.0	4	1
	建築学専攻	31	22	71.0	872	28.1	1,799	58.0	1	1
	土木工学専攻	31	29	93.5	858	27.7	1,767	57.0	0	0
	経営工学専攻	17	14	82.4	851	50.1	1,760	103.5	0	0
	原子力工学専攻	9	9	100.0	797	88.6	1,668	185.3	0	0
	小計	259	244	94.2	6,807	26.3	13,485	52.1	6	2
	合計	983	917	93.3	29,329	29.8	57,892	58.9	275	201
	環境情報学部	環境情報学科	157	127	80.9	1,815	11.0	3,571	21.6	22
留	留	8	5	62.5						

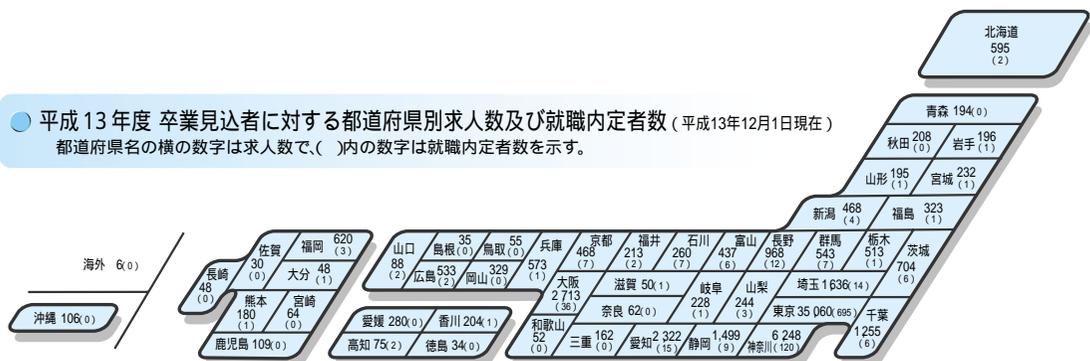
平成13年度就職内定先企業 / 資本金順上位50社

数値は就職内定者数(平成13年12月1日現在)

工学部・大学院工学研究科			環境情報学部		
日産自動車14	NTTデータ1	アイク1	日立製作所1	ホームック1	アイ・エス・ピー1
ソニー5	日本IBM1	大成正業4	東芝2	東急ストア1	アジア航測1
富士通3	アンリツ3	ローム1	松下電器産業1	ベルシステム241	京都市もの友禅1
日立製作所8	ブリヂストン1	本田技研工業12	積水ハウス1	セキルガルオクライト1	九九プラス1
東芝4	マツダ1	熊谷組1	日本IBM1	コトロール1	穴吹工務店1
三菱重工5	日本原子力発電1	富士重工業8	日本通運1	アルファシステムズ1	リコーシステムズ1
NKK2	スズキ1	清水建設1	セコム1	日立ハイテクノロジー1	赤ちゃん本舗1
NEC8	京セラ1	全日空1	CSK1	東プレ1	ドコモシステムズ1
松下電器産業2	大日本印刷5	日本通運1	日立カネアジアル1	愛眼1	阪急交通社1
JR東日本5	長谷工コーポレーション1	コマツ1	大東建託1	サックスアドバタイズ1	スズキ自販東京1
積水ハウス6	大和ハウス工業3	大京1	三協アルミニウム工業1	ハックキミザワ1	フットーマガルテック1
日本テレコム2	信越化学工業1	ミネベア1	藤和不動産1	エブソン販売1	インクメントP1
三菱電機5	東京急行電鉄1	沖電気工業4	伊藤忠テクノサイエンス1	興和1	横浜トヨペット1
デンソー3	凸版印刷3	日本電子計算機1	TIS1	ファーストリテイリング1	オージス総研1
三洋電機2	リコー5	村田製作所2	ゼンコー1	東芝物流2	佐藤建設工業1
キヤノン6	三菱マテリアル1	鹿島建設4	ニチコン1	富士総合研究所1	日本環境認証機構1
			トランス・コスモス1	佐島電機1	日本サード・パーティ1

平成13年度卒業見込者に対する都道府県別求人数及び就職内定者数(平成13年12月1日現在)

都道府県名の横の数字は求人数で、()内の数字は就職内定者数を示す。



就職・進学活動スケジュール

工学部

学年 進路先	2年生	3年生	4年生
公務員等	4～6月 公務員試験模試 11月 公務員ガイダンス及び講座説明 12月 公務員試験受験対策講座 12～3月 公務員試験模試	4～6月 公務員試験模試 11月 公務員ガイダンス及び講座説明 12月 公務員試験受験対策講座 12～3月 公務員試験模試	4～6月 公務員ガイダンス 公務員試験模試
民間企業	6月 資格・公務員・インターシップガイダンス	5月 就職ウォーミングアップガイダンス 10月 各学科就職ガイダンス(第1回) 適性検査(職業適性・情報処理適性) Uターン就職ガイダンス(第1回) 就職講演会(就職活動全般) // (自己分析) // (エントリーシート・論文) // (業界研究) 11月 就職試験対策(SPI・論文) 11～1月* 自己分析・筆記試験対策 *業界・企業研究、エントリー 12月 就職試験対策(一般常識) 2月 各学科就職ガイダンス(第2回) 就職試験対策(一般常識・SPI・履歴書) // (模擬面接)	4月 各学科就職ガイダンス(第3回) 就職試験対策(模擬面接) *学内での希望調査及び推薦者決定 4～6月* 採用試験(3月から開始の企業あり) *採用内々定 10月 採用内定 学内での採用内定報告手続
本学大学院進学		4月 進学予定者対象の進学説明会 図書館などで大学院の各専攻内容や入試問題等を検討	4月 進学予定者対象の進学説明会 5月 推薦入学募集要項入手・願書提出 6月 推薦入学試験 8月 学生募集要項入手・願書提出 9月 第1次入学試験 2月 第2次入学試験
他大学大学院(海外留学)		7月～ 他大学または留学先より資料を取り寄せ情報収集活動	4月 指導教授と相談の上、進学先の検入学試験

自己の適性に基づいて家庭で協議

環境情報学部

学年 進路先	2年生	3年生	4年生
公務員等	9月～12月 公務員ガイダンス 教養試験対策講座 専門試験受験相談会	9月～12月 公務員ガイダンス 教養試験対策講座 専門試験受験相談会	4～6月 公務員試験模試
民間企業	4月 就職ガイダンス(就職準備) 11月 業界研究会 12月 就職講演会(就職準備)	4月 就職ガイダンス(就職準備) 就職オープンセミナー(講演会) 職業適性検査 6月 民間就職試験準備対策講座ガイダンス 就職試験対策講座(一般常識・SPI) 7月 就職講演会(今年度の就職環境と就職活動) // (業界・業種研究) 就職ガイダンス(夏期休暇の使い方) 9月 就職ガイダンス(就職準備) 民間・公務員試験準備対策講座(33コマ) 就職講演会(キャリアガイダンス) 個人面談(就職希望調査等) 就職試験講座(経済常識・一般常識) 10月 就職試験講座(実践模試・適性検査・自己PR・エントリーシート) 就職セミナー(女子学生のメイク・ファッション) 就職講演会(自己分析) // (エントリーシート) 11月 就職試験講座(一般常識・SPI) 学内業界研究会(毎週火曜・金曜 21社) 12月 就職試験講座(論文・履歴書・情報処理適性) 就職セミナー(公開模擬面接) 4年生の就職体験報告会 2月 就職ガイダンス(就職直前ガイダンス) 就職試験講座(SPI・論文・履歴書) 模擬面接講座 学内企業研究会(2日間) 3月 模擬面接講座(3日間)	4月 就職ガイダンス *学内での希望調査及び推薦者決定 4～6月* 採用試験(3月から開始の企業あり) *採用内々定 10月 採用内定 学内での採用内定報告手続
本学大学院進学		4月 進学希望者対象の説明会	4月 進学予定者対象の進学説明会
他大学大学院(海外留学)		7月～ 他大学または留学先より資料を取り寄せ情報収集活動	4月 指導教授と相談の上、進学先の検入学試験

自己の適性に基づいて家庭で協議

キャンパスSPOT ⑧



環境情報学部のある横浜キャンパスは、最先端のマルチメディア機器や情報関連機器が充実する各種教育施設ばかりがクローズアップされがち。しかしそれ以外でも、いたるところで“21世紀型の新しいキャンパス”を実感することができるのです。今回は、自然環境への配慮の一環として敷地内に残されている「竹林」と、学生たちの健やかな身体づくりに欠かせない「体育館」をご紹介します。



竹林

自然のままに残され、春には筍も生えてくる!

キャンパスの南側をグルリと樹木が囲み、その一部は竹林となっています。春になるとたくさんの筍が生え、学生達が中心となり、筍堀¹を行います。

ちょっと遠回りになるけど、気持ちいいから遊歩道を歩きます!



生い茂る樹木に沿うように公開遊歩道が設置されています。環境への配慮のために廃材を利用したウッドチップが敷き詰められており、ここを歩くのはとてもいい気持ち。周辺住民の方々も自由に散歩することができます。



地域の方々とバウムクーヘン作りも!

子供からご年輩の方々まで
素朴な甘さに大感激!

昨年ISOフォーラム開催時には、竹林で地域住民の方々を対象にバウムクーヘン作りを実施。非常に盛況でした!



参加人数は70名ほど。親子で参加された方々も目立ちました。



切り倒した竹に“ネタ”を巻いて焼いているところ。みんな真剣。

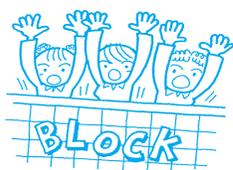


綺麗な層からなる見事なバウムクーヘンが完成。美味でした!



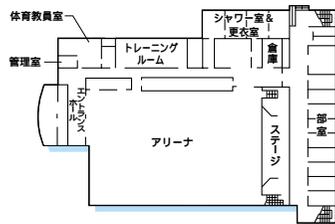
竹林の向こうに広がる風景。

体育館



最新トレーニング器具と清潔なシャワー室が自慢

床面積約2100㎡からなり、様々な環境配慮がなされた体育館。体育の授業やサークル活動に利用されています。トレーニングルーム、シャワー室などもしっかり完備しており、学生たちの体づくりを完全バックアップ!



サイクル活動などで利用する際は受け付けで手続きを行います。

アリーナ



サークルや部活動単位でアリーナを利用する場合は事前の申請が必要ですが、予約のない時間帯には個人が自由に使うこともできます。取材時はちょうどバドミントン部が練習中でした。



世田谷よりコート数が取れないのがちょっと不満
(大熊圭祐君・建築2年)



きれい!照明が明るいところもいい
(新井進太君・環境1年)



女子用シャワー室が用意されてるのが嬉しいな
(田上なおさん・土木2年)

トレーニング室

スポーツクラブ顔負けの器具が揃ったトレーニング室。ここはいつでも利用可能で、休み時には、体力アップ、はたまたダイエット?を目標とした学生が汗を流しています。



こんな本格的な器具も。部活やサークルの前のウォームアップに利用する人も多いようです。

シャワー室&更衣室



学生たちの利用マネーもよく、いつも清潔。ただし忘れ物は多いぞう。身体障害者の方々のためのトイレももちろん完備しています。

ここがエコキャンパス 雨水利用システム



太陽エネルギーで 温水シャワーも!

地下の雨水槽に集めた雨水は、樹木や体育館の屋根への散水(夏期に体育館内の温度を下げるため)に利用しています。また体育館の屋根にはソーラーパネルが設置され、太陽エネルギーを体育館の温水シャワーに活用しています。



目指せ！海の守護神



Data

顧問：田村 宏
 (機械工学科教員)
 会長：堀江 誠
 (機械システム3年)
 会員数：10名
 設立：1997年

主な活動内容

- 4月 新入生歓迎コンパ
- 5月 練習会、スプリングキャンプ
- 6月 練習会、パッチテスト
- 7月 パトロール活動
- 8月 パトロール活動
- 9月 競技会参加
- 10月 競技会参加
- 11月 納会
- 12月 忘年会
- 1月 新年会
- 3月 追い出しコンパ

クラブとしての体制が固まったばかり 方向性を決めていくのはこれからです。

ライフセービングとは水際の事故をなくすことを目的とした活動のこと。事故防止のための監視・指導・救助はもちろん、自身の技術向上のための練習や競技も活動内容に含まれます。「4年前に設立されたクラブで、はじめは人数が少なかったんです。」と語るのは、ライフセービングクラブ前会長の小瀧邦彦君(経営4年)です。彼がこの活動を始めたのは、1年生のときに4年生の先輩達2人に誘われたのがきっかけ。「シーズン中は海の近くにずっと合宿すると聞き、それじゃあ自分もやってみようかな、と。というのも、ボクはもともとサーフィンをやっているんで、空いてる時間にそっこのほうを楽しもうという下心がありまして(笑)」。

そんな小瀧君ですが、ひとたび活動を始めたところ、すっかりライフセービングの虜となってしまう、その魅力をもっと多くの仲間達に知ってもらうために

正式な団体として立ち上げることを決意。大学側と折衝を続け、見事に夢を実現させることができたのです。いわばライフセービングクラブにおける一番の功労者と言えるでしょう。「活動しやすいように体制を整えることはできましたが、まだまだ団体としての方向性は定まってません。今後の後輩の頑張り」に期待しています(小瀧君)



Tetsuyuki Aoto
 競技会にも積極参加している青戸哲之君(環境情報2年)、クラブのエース的存在です。



Kayoko Mito
 水戸佳代子さんはクラブの紅一点。「来年は女性クラブ員をもっと勧誘したいですね」



Makoto Horie Kunihiko Kotaki
 左が現会長の堀江誠君。右が前会長の小瀧邦彦君。ともに同クラブを団体として立ち上げるまでに頑張りました。「海が好きな仲間達が集まってできた当クラブ。歴史を作るのはこれからです」(堀江君)



夏休みはずっと海水浴場で泊まり込み 正直キツイけど得るものは大きいです。

武蔵工大ライフセービングクラブは、あまり大学単位での活動はしていません。千葉県・九十九里浜周辺の海水浴場を監視する「九十九里ライフセービングクラブ」という団体に所属し、そちらの方針やスケジュールに沿って活動しています。「同じ大学だから同じ海水浴場を監視するというわけではなく、みんなバラバラ。九十九里ライフセービングクラブのほうでシャッフルされ、それぞれが割り振られた浜に向かいますから。7～8月の海水浴シーズン中は、各浜ごとに近くの体育館などでずっと合宿を張るため、ウチの大学の仲間より、他大学や社会人のライフセーバーたちと仲良くなりますね」

(増田知也君・機械システム3年)。

なんと彼らは夏休みを丸々ライフセービングに捧げているわけです！しかもその前後の6月、9月についても、都合がつく限り浜に向かっていくとか(この期間も海で遊ぶ人がいるため)。また春、秋、冬も完全にオフシーズンというわけではなく、月に1回



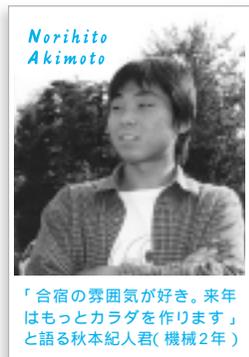
Tomoya Masuda

熱い男、増田知也君。「ライフセーバーは不足している。多くの人に興味を持ってほしい」

から2回程度は九十九里ライフセービングクラブが実施する技術向上のための練習会に参加しているそうです。「充実した活動を行っているとは思いますが、武蔵工大ライフセービングクラブ独自の活動が少ないのはちょっと問題かも。夏前にメンバーが集まりプールで練習することもあります。せっかく正式

な団体となったんですから、大学の一クラブとして、もう少し積極的な活動をする必要があるでしょう」と語るのは現会長の堀江誠君(機械システム3年)。他の仲間も「クラブ室がないのもネックかもしれないが、他のサークルのようにもっとみんなで集まりたい」(水戸佳代子さん・電子通信1年)という意見を持っています。設立したばかりの同クラブにとって、このあたりは今後の重要課題となりそうです。

いずれにしろ、学生時代の貴重な時間を、ライフセービングというボランティア活動に捧げることを決意した彼らの気持ちは非常に尊いもの。これからクラブとしてどう成長していくのか、温かく見守ることにしましょう。



Norihito Akimoto

「合宿の雰囲気が好き。来年はもっとカラダを作ります」と語る秋本紀人君(機械2年)



充実のメンバーで怒濤の快進撃！



Data

顧問：西嶋 周二
(環境情報学科教員)
 会長：甲斐 慶樹
(環境情報3年)
 会員数：38名
 設立：1997年

主な活動内容

- | | |
|-----|----------|
| 4月 | 花見 |
| 5月 | 新歓コンパ |
| 6月 | 東工大リーグ |
| 7月 | 東工大リーグ |
| 8月 | 合宿 |
| 9月 | 東工大リーグ |
| 10月 | 紅葉カップ |
| 11月 | サッカー |
| 12月 | スノボ、忘年会 |
| 1月 | 新年会、追いコン |
| 2月 | スノボ |
| 3月 | ツアー |

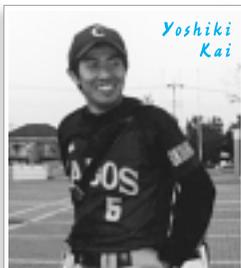
サークルと体育会系のちょうど中間 本気で野球を楽しむなら絶好の雰囲気。

今年で創立5年目となる環境情報学部。CABOSは、その第一期生たちが野球好きを集めて作ったチームを前身としています。はじめはなかなか9人集まらず、練習試合すらできないような貧弱さでしたが、今や総メンバーは38人(うち7人が女性)。環境情報学部にあるサークルの中でも一、二を争う大所帯に成長しています。実力のほろかなりのもので、最近は大大会で上位に残ることもしばしば。充実した活動

を続けてきた結果といえるでしょう。

「戦力が整ったのは去年あたりから。先輩達が何もないとこから頑張って残してきたものが、ようやく花開いたという感じ。メンバーが飛躍的に増えた結果、必然的にレギュラー争いが生まれ、お互いに切磋琢磨しあうという好循環ができました。まだまだウチのチームは強くなりますよ!」と語るのは部長の甲斐慶樹君(環境情報3年)。勝ち負けより、楽しむことを優先するサークルが多い中、CABOSは何よりも勝利にこだわるチームらしく、試合でも上手い人や調子のいい人から順に使っているそうです。「全員を試合に出すというやり方もサークルとして間違っていないと思いますが、それだといつまでたっても遊びの延長。野球が好きだからこそ、試合や練習には遊び一切なしの真剣勝負で臨みたい。そういう意味ではちょっと体育会的なノリになりつつあるのかも」(甲斐君)

しかし女性のクラブ員で、マネージャーではなく選手として参加している清田華代さん(環境情報1年)は次のように言います。「でも、体育会系のような堅苦しさは全然ないですよ。先輩と後輩はとても仲がいいし……。気を抜くところは抜く、引き締めるところは引き締める。そんな“サークル以上、体育会系未満”の雰囲気を備えているところがCABOSの一番の魅力なんだと思っています」



部長の甲斐慶樹君は剛腕ピッチャー。彼が投げると試合がピリリと締まるとか。



Daisuke
Hasegawa

次期部長の長谷川大介君はチームのムードメーカーの役割。ポジションはピッチャー。



Takayuki
Oowada

初心者ながらガッツでレフトの定位置を確保した大和田孝行君。ラーメン大好き人間。



Teruyo
Seida

ライトのレギュラーを狙う清田華代さん。上達が早く、男性の球にも少しもひるまない。



Mizuka
Satou

背番号18のマネージャー佐藤瑞華さん(環境情報2年)は影の実力者。

メンバーは野球初心者ばかりだけどやる気があるから上達も早いです。

実はCABOSには、中学・高校時代に部活動として野球をやっていたメンバーは数えるほどしかいません。多くがCABOSに入ってから本格的に野球を始めた者ばかりなのです。副部長の大和田孝行君(環境情報3年)は次のように言います。「みんな根っから教え好きなんです。今まで野球をやっていなかった人たちがいかにうまくさせるかに醍醐味を感じるんですね。かくいボクも、大学に入るまでは初心者でしたが(笑)」。これに甲斐君も続けます。「せっかく野球がやりたくてCABOSに入ってくれたんだから、みんなにうまくなって欲しい。やる気を削がないように指導してあげれば、上達も早いです」



Hidetada Kurosawa

二ヒルな黒澤秀志君(環境情報2年)はサード。好守・好打でチームの危機を救う。



Yoshitomo Fujima

気配りの人、田嶋詳知君(環境情報1年)。どこでもOKなオールラウンドプレーヤーだ。

練習は週に1回。3時間を目安に行っていますが、熱が入るあまり、日が暮れるまで白球を追っていることも多いそうです。取材した当日も練習を見せてもらいましたが、体育会系顔負けの非常に充実した内容。守備練習では華麗なダブルプレーもピシピシ決まり、「強豪チーム」という風格すら漂っていました。

「CABOSという名前はメジャーリーグのカブスに掛けていますが、ユニフォームはなぜかマリナーズ風。ちょっと変な感じもしますが、みんなこの名前とユニフォームに愛着を感じています。将来的にはこのユニフォームを見ただけで相手チームがひるむようになりたいですね。横浜にCABOSあり! というような(笑)」と力強く語ってくれたのは次期部長の長谷川大介君(環境情報2年)。このチームがその言葉通りの存在となる日はきっと遠くないことでしょう。



帽子のヒサシの裏には、それぞれの目標やモットーがマジックで書かれている。

「情報メディア学科」の新設と工学部2学科の名称変更 武蔵工大の進化！深化！真価！

企画広報室長 野澤 和範

いま、大学経営は大変な時代に入りました。就学人口は長期低落傾向を示すのに対し、大学数は急増し、また既設大学でも学部・学科の新增設や改組が急展開。今春には入学定員を充足できない大学が約3割(短大では約6割)に達したと報じられています。長期構造不況産業といえる大学業界では、“勝組大学”と“負組大学”の二極分



武蔵工業大学 環境情報学部 第2学科 校舎 完成予想図

化が急速に進んでいます。こうした時代背景のもとに、本学も環境情報学部新設(97年)以来のビッグ・プロジェクトに取り組んでいます。ひとつは環境情報学部にて2番目の学科である「情報メディア学科」を02年立ち上げます。文部科学省の認可も得、現在、新校舎の建設が急ピッチで進んでいます。この学科は、コンピュータやネットワークを中心に据えた情報化社会の急展開に着目し、劇的な変化をもたらす情報環境の諸課題を、情報システム(理系)の面と、情報弱者等の発生が予想される社会科学(文系)の両面から考究する新機軸の学科です。これに伴い既設の「環境情報学科」も整理・強化されますので、同学部は文字どおり「環境」と「情報」の学部として基盤が確立します。

一方、工学部でも02年を期して2学科で学科名称が変わります。土木工学科が「都市基盤工学科」に、経営工学科が「システム情報工学科」になります。両学科とも単なる名称変更とは異なり、時代の構造変化に対応したカリキュラムの見直しを伴った変更です。詳しくは本学のPR誌等をご参照下さい。

MI-TECH横浜祭における環境事業功労者表彰 受賞

平成13年度 MI-TECH横浜祭運営委員会 会長 金本 賢一郎(環境3年)

去る平成13年10月22日、横浜市より「環境事業功労者」としてMI-TECH横浜祭が表彰された。これは、過去5年間のMI-TECH横浜祭が環境負荷低減を目指し、DRP(模擬店食器のデポジット制)や、ごみの9分別、フリーマーケット等を実施したことに対するものだ。今回表彰された事は、MI-TECH横浜祭運営委員会(以下Y.F.A)としても励みになる。だが、これはY.F.Aだけが表彰されたものではない。

今回の表彰は、「功労者」に贈られたものである。同じく表彰された他の「功労者」は、“作業着を着て早朝から汗まみれになりながら働き、いつも寡黙で、夕飯にはかぼちゃを煮たやつなんかを食べ、夜は9時過ぎには寝る”ような高徳な方々であった。だが、Y.F.Aはどうだろうか。確かに、“スタッフTシャツを着て早朝からごみまみれになりながら働き”

はした。だが、「いつも大騒ぎ」し、夕飯が終われば「飲み明かす」ような団体である。こんな「功労者」がよいのか。

今回の表彰は「功労者」に贈られたものである。DRPについては、参加団体から食器の洗浄作業を協力してもらっている。また期間中のごみの分別状況は極めて良い。

つまり、横浜祭の趣旨を御理解、ご協力していただいた方々全員が功労者であり、表彰されたのだ。なんだか小学校の校長先生のような締めくくり方だが、本気でそう思う。

協力していただいたすべての方々はこの場をお借りして、感謝申し上げたい。



学長への受賞報告



受賞を記念して

世田谷キャンパス防災訓練実施される

世田谷キャンパス 自衛消防隊 隊長 松浦 保

毎年、防災訓練を実施していますが、今年度の主な行事は次のとおりです。

「防災教室」平成13年4月5日実施

ガイダンスの一環として、防災意識の高揚を図るため、大学院新入生を対象にした訓練です。まず、伊藤防災部長の挨拶、玉川消防署防災指導担当係長の「防災について」の講話、防災ビデオの上映等をした後、プレイコートAで水用消火器操作訓練を全員実施しました。

「学科対抗消火訓練」平成13年10月31日実施

各学科学生及び防災対策委員の各チーム5名、計10チーム50名が水用消火器操作訓練を競技形式で実施し、優勝チームはエネルギー基礎工学科でした。このほか起震車による震度7の体験・煙中訓練を実施しました。また、これらの体験や訓練に地域住民の皆さんも参加されました。

「世田谷キャンパス防災訓練」平成13年11月7日実施

今年の訓練対象は、場所を3号館とし、火災発生を想定し、教室・研究所等にいる学生・教職員が対象となりました。自衛消防隊は連絡通報、初期消火、避難誘導、救護などの総合訓練を行うと共に、玉川消防署に出動を要請し、逃げ遅れた学生を救出した後、消防署と合同で一斉放水(鎮火)までの訓練を実施しました。

これらの訓練は、玉川消防署・世田谷区防災課の指導のもとに、防災対策委員会で検討・立案したものです。防災訓練には、皆様方のご協力が第一であります。今後とも、よろしくお願いたします。



消火器操作訓練、標的を狙って



玉川消防署と一斉放水

課 外 活 動 短 評

写真部

4月・6月と横浜クイーンズスクエア内みなとみらいギャラリーにおいて写真展を開催。多くの来客の方から好評を得た。

空手道部

全国空手道選手権大会において、須藤雄介君(環境1年)が一般男子有級個人組手で優勝を果たした。

水泳部

竹村亜衣さん(環境2年)が第6回関東学生冬季公認記録会(50m自由形・100m自由形)において、日本学生選手権標準タイムを突破し、第77回日本学生選手権水泳競技大会(同種目)へ出場を果たした。

ラグビー部

昨年に引き続き、関東理工系大学リーグ戦優勝、全国地区対抗ラグビー大会予選において優勝し、全国地区対抗大会への7年連続出場権を獲得した。

ハンドボール部

関東学生ハンドボール連盟秋季リーグ戦において、優勝を果たした。また、菊地辰矢君(機械1年)が得点王(76 / 197点)となった。

硬式庭球部

第27回新人トーナメント大会男子シングルスにおいて、渡辺大輔君(土木2年)が本戦へと勝ち進み、準優勝を果たした。

アイスホッケー部

インカレ関東地区予選競技会において、帝京大学に勝利し、インカレへの出場権を獲得した。

ゴルフ部

関東大学春季EFGブロック対抗戦Fブロックにおいて、準優勝を修めEブロック昇格を果たした。

ワンデリングスキー同好会

長野県知事杯争奪木島平学生スキー大会において、水野陽介君(機械4年)が男子大回転優勝、男子スーパー大回転準優勝、男子回転4位という成績を修め、男子最優秀選手賞を受賞した。また、団体として男子総合第6位という成績を修めた。

緊 急 奨 学 金

平成13年度緊急奨学生として2名が採用され、授業料の全額が貸与されました。

平成13年度 「大学と父母との連絡会」について

平成13年度の「大学と父母との連絡会」は7月8日(日)沖縄の那覇市を皮切りに、9月29日(土)の東京・横浜地区までの間、全国25会場において開催されました。各会場の出席状況は下記のとおりで、各地において評議員の方々には運営等にご協力いただきました。

会場別出席者数(対象県以外からの出席者を含む)

開催地	開催日	会場名	出席者数(人)
札幌	9月1日(土)	札幌東急イン	8
秋田	9月8日(土)	アキタスカイホテル	12
仙台	9月9日(日)	ホテル仙台プラザ	14
郡山	9月8日(土)	ホテルハマツ	17
宇都宮	9月9日(日)	関東チサンホテル宇都宮	20
水戸	9月1日(土)	ホテルシーズン	16
東京	9月29日(土)	武蔵工業大学 工学部	453
横浜	9月29日(土)	武蔵工業大学 環境情報学部	89
新潟	9月8日(土)	ホテルイタリア軒	20
高崎	9月9日(日)	ホテルメトロポリタン高崎	13
甲府	9月8日(土)	ホテル談露館	18
長野	9月8日(土)	ホテル国際21	22
浜松	9月1日(土)	オークラアクトシティホテル浜松	20
静岡	9月2日(日)	ホテルセンチュリー静岡	64
金沢	9月1日(土)	金沢スカイホテル	16
富山	9月2日(日)	名鉄トヤマホテル	15
大阪	9月1日(土)	リーガランドホテル	10
名古屋	9月2日(日)	名古屋国際ホテル	19
高知	9月1日(土)	オリエントホテル高知	12
松山	9月2日(日)	スカイホテル	13
広島	9月1日(土)	リーガロイヤルホテル広島	16
岡山	9月2日(日)	岡山国際ホテル	12
宮崎	9月1日(土)	ホテルオーシャン45	18
福岡	9月2日(日)	ホテルステーションプラザ	17
那覇	7月8日(日)	ホテル西武オリオン	11
合 計			945

都道府県別出席者数

都道府県名	出席者数(人)	前年度出席者数(人)
北海道	8	12
青森	2	3
岩手	5	8
宮城	14	16
秋田	5	7
山形	1	4
福島	19	23
茨城	33	31
栃木	24	30
群馬	16	23
埼玉	59	66
千葉	32	48
東京	151	178
神奈川	241	246
新潟	20	9
富山	15	14
石川	16	13
福井	2	3
山梨	26	27
長野	29	33
岐阜	6	3
静岡	90	70
愛知	12	14
三重	3	8
滋賀	3	0
京都	4	2
大阪	4	3
兵庫	2	1
奈良	1	0
和歌山	0	1
鳥取	2	1
島根	3	0
岡山	9	4
広島	10	10
山口	4	2
徳島	3	1
香川	2	2
愛媛	12	6
高知	12	12
福岡	15	16
佐賀	0	1
長崎	1	0
熊本	0	1
大分	0	4
宮崎	13	6
鹿児島	5	11
沖縄	11	16
その他	0	3
合 計	945	992

発行 武蔵工業大学後援会

〒158 8557 東京都世田谷区玉堤1 28 1 武蔵工業大学内 後援会事務局 TEL.03(3703)3111 内線(2187) FAX.03(5707)1160
ホームページ <http://www.comm.musashi-tech.ac.jp/kouenkai> メールアドレス mkoenkai@adm.musashi-tech.ac.jp